令和7年度

# 「運営に関する計画」
# （最終評価）

大阪市立八幡屋小学校

令和　8年　3月

（様式１）

大阪市立八幡屋小学校　　令和　７　年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

本校では「知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな実践力のある子供を育てる」という学校教育目標のもと、体験的な学習の深化と充実を図り、知的興味や関心を励起し、基礎基本の学力の定着、豊かな心の醸成、体力の向上や生活の自立につながる保健指導・生活指導、さらには家庭との連携にも力を入れている。

全国学力学習状況調査の平均正答率は、【国語】では令和４年度の結果と比較すると、全国の平均正答率との差は小さくなった。また、平均無答率も向上している。領域では「書く」「言葉の特徴」で学力の向上が見られた。学校全体で取り組んでいる漢字学習や漢字検定に向けた学習の効果が見られた。「話す・聞く」「読む」では学力の向上が見られなかった。音読や読書についての取り組みをすすめているが効果としては十分表れてはいない。【算数】では令和４年度の結果と比較すると、全国の平均正答率との差は縮まっていない。また、平均無答率も同様である。領域では「変化と関係」で大きく学力の向上が見られた。すべての単元で取り組んでいる習熟度別少人数指導で個々が考えて解答を導く機会を大切してきた効果が見られた。「図形」「データの活用」では学力の向上が見られなかった。「学力向上支援チーム事業」「各ブロック学力推進事業の実施」で算数を中心に研究・授業改善・個別指導をすすめているが、まだ効果は十分表れていない。従来より視写や読書指導の充実を図るほか、漢字検定や計算検定、音読大会にも取り組み、児童への動機付けを図っている。さらに、放課後学習ＹＡＳＳの学びの場を設定し、大阪市の学力向上支援事業とも連携しながら学校全体で取り組んでいる。今後も学習規律の徹底や効果的な指導法の工夫・改善をさらに図るとともに、保護者と連携しながら家庭学習の充実を図っていく。

体育の授業やキッズタイム（たてわり遊び）で様々な運動や遊びを経験する機会を設定するとともに、「なわとびタイム」「かけ足タイム」などの強化月間・週間により、楽しく体を動かす習慣をつけ、体力・運動能力を高めることができるように取り組んできた。そのため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、全国・大阪市との差は縮まってきており、平均を上回る結果も出ている。しかし「反復横とび」や「立ち幅とび」の平均点が本年度も全国・大阪市平均より下回り、記録は良くなかった。素早さやタイミングの分野での運動能力の向上が課題である。「50m 走」、「ソフトボール投げ」、「握力」については差が縮まり、記録は全国・大阪市平均より高い。今後も、全国・大阪市平均より「体力合計点」が上回るように、体育の授業時間に限らず、小体連による放課後のスポーツ活動との連携や、子どもの体力向上支援事業（シナプソロジー）など、多様な取組の工夫を継続して行い、運動能力、体力の向上を目指していく。

学校運営の基本スタンスとして、**「チームワーク、トライ＆チャレンジ」**をモットーに「チーム八幡屋」として、教職員が一体となって目標を追求し、全体で成果をあげる。また、子どもたちの教育に大胆に、果敢に挑み、挑戦する。

**【学力向上】**

１．学ぶ楽しさを味わえる主体的・対話的で深い学びの実現
２．基礎・基本となる知識の定着
３．読書活動の一層の推進
４．授業力・指導力の向上につながる研究・研修
５．学力向上のための少人数指導の充実

**【道徳心・社会性の育成】**

１．道徳学習の充実
２．子どもに主体的に考えさせる指導の徹底
３．あいさつの徹底
４．自尊感情を高め、自己有用感を感じられる取組

**【健康・体力の保持増進】**

１．運動する楽しさを味わえる体力向上の取組
２．自他の心と体を大切にする教育の推進

**【多様性を認める】**

１．多文化共生教育の充実
２．インクルーシブ教育の推進

中期目標

**【安全・安心な教育の推進】**

〇令和７年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 85％以上にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

〇令和７年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率３割以下の児童を令和３年より１ポイント減少させる。

**【学びを支える教育環境の充実】**

〇令和７年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、答える児童の割合を 100％にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標

**【安全・安心な教育の推進】**

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９４％以上にする。

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９１％以上にする。

○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を１００％にする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0．1ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75％以上にする。

○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を85％以上にする。

**【学びを支える教育環境の充実】**

○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の７５％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕

○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を８０％以上にする。

○小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７３％以上にする。

3　本年度の自己評価結果の総括

**【安全・安心な教育の推進】**

学校全体として、さまざまな状況を想定した避難訓練や保護者と連携した引き渡し訓練、教科指導を通した防災学習など、防災・減災教育を推進する取組に努めてきた。また「学校安心ルール」をもとに安全教育を推進するとともに、「非行防止教室」を開催し、スマホの正しい扱い方等身近な生活指導の問題を関係機関と連携して学ぶ機会を設けたり、自転車の法改正に伴い自転車講習会を警察主導で行ったり安心・安全の取組の徹底を図ってきた。

さらに「学校適応感尺度（アセス）アンケート」を活用し、学校生活における満足感や自己肯定感を高めるよう安全・安心な学級づくりに取り組んできた。定期的なスクリーニングの開催や関係諸機関との連携による不登校児童への対応およびＩＣＴによる学習機会の確保などにも努めてきた。その他、平和学習、各学年における人権教育、「ワールドフェスティバル」といった学校行事における国際理解教育の実践など、多様な価値観や文化があることを知る機会を設定しながら多文化共生を推進するなど、互いのよさを認め合う取組を進めてきた。国外からの編入生もあり、初期面談からプレクラス、受け入れ、その後の日本語指導の充実にも積極的に取り組んだ。それらの取組の結果、令和７年度の学校アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 89.8%に達成するなど、取組の成果が表れているといえる。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

学力向上に関しては、算数科を研究教科とし、「確かな基礎・基本の学力に基づく『学びに向かう力』を高める指導法の工夫」を研究主題に、主体的・対話的で深い学びの追求に取り組んだ。研究授業や公開授業、若手教員によるメンター研修、スクールアドバイザーによる研修、ＳＳＷや講師による研修などを通じた授業改善、児童理解に取り組んできた。また、「放課後学習ＹＡＳＳ」の取組、「すらすら算数」「算数チャレンジ」「算数アタック」等の実施により、基礎的な技能や算数的読解力の向上、学んだことを日常生活に活かす力を高める実践を図った。その結果、令和７年度の「全国学力・学習状況調査」において、学力に課題のみられる児童生徒（区分Ⅳ）の割合は、国語科と算数科をあわせて 21%(昨年度 26%)で、学力の向上が認められた。また、「大阪市小学校学力経年調査」における平均正答率は、国語科 98.9(昨年度 99.9)、算数科 100.9(昨年度 100.7)で、小学校での研究科目である算数科では３年連続向上した。

体力向上に関しては、体育の授業やキッズタイム（たてわり遊び）で様々な運動や遊びを経験する機会を設定するとともに、「なわとびタイム」「かけ足タイム」などの強化月間・週間により、楽しく体を動かす習慣をつけ、体力・運動能力を高めることができるように取り組んできた。また、「運動がんばりカード」や「運動記録カード」を作成したり、２回新体力テストを実施したりして、個人の記録を活用し、目標を持たせることで、児童の体力向上への意欲を高めながら体を動かす楽しさを体験することができるように工夫を重ねてきた。そのほか、放課後のスポーツ活動との連携や、子どもの体力向上支援事業（シナプソロジー）など、多様な取組の工夫を継続して行い、運動能力、体力の向上を目指している。また、部活動体験等の体験授業やトップアスリート招へい事業等の体育的行事にも取り組んだ。その結果、「全国体力・運動能力、運動能力、運動習

慣等調査」ではほとんどの種目で全国や大阪市の数値を上回ることができた。

**【学びを支える教育環境の充実】**

1 人 1 台学習者用端末年間活用計画を更新し、それに沿って ICT 機器を活用した学習活動に各学年が取り組んだ。協働学習支援ツールを用いた学習を週２回は実施する取組を続け、各教科の特性を踏まえて学習者用端末の機能を有効に活用し、児童が主体的・対話的に学習に取り組む場面が増えた。また、学校と家庭との“双方向通信通の日”の実施や、全学年で「心の天気」を毎日入力し習慣化することによって、学習者用端末を活用する機会を増やすことで、使用にも慣れ、学びを支える教育環境の充実につながった。ICT 支援員の活用も進めながら、「いじめアンケート」「心の天気」「相談機能」など、スマートスクール次世代学校支援事業も推進し、教職員は、情報の共有や児童から得られるデータの分析に、有効活用している。今後さらに研修を深めスキルアップを目指す。

教員の時間外勤務時間は、例年の平均を全体では下回っており、ICT 化による校務の効率化及び情報化を進めることで、児童と向き合う時間を増やすことができた。計画的にゆとりの日を週１回設定し、学校行事等の弾力的な運用、長期休業中に学校閉庁日を増やすなどの取組も行った結果、8 割の教職員が 10 日以上の年次有給休暇を取得し、年度目標を達成することができた。教員の一人当たり平均時間外勤務時間は、昨年度よりさらに累計 1 時間半程減り、改善されている。働き方改革推進プランに掲げる教員の勤務時間に関する基準１を満たす教員の割合も 75％に達し、基準２を満たす教員の割合も 100％を達成した。

読書環境を整える手立てとして、子どもの興味関心に即した本を増やしたり、学校図書館の開放日を、水・木・金曜日の週３回に増やしたり、図書室の本を学級文庫として活用した。また、８年ぶりに図書ボランティアの方と「絵本ひろば」を行い、全児童に読書への興味関心を養うことができた。今後も、学校図書館の環境と共に読書活動そのものの充実も図っていきたい。高学年に向けて、電子書籍の活用を考えていく。

（様式２）

大阪市立八幡屋小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
|---|---|---|
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|---|
| 【最重要目標１　安全・安心な教育の推進】<br>○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 94%以上にする。<br>⇒３年　100%　４年　81.5%　５年　91.7%　６年　86.2%<br>平均　89.9%（未達成）<br>○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。<br>⇒３年　96.7%　４年　92.6%　５年　100%　６年　93.1%<br>平均　95.6%（達成）<br>○小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。<br>⇒３年　93.3%　４年　66.6%　５年　91.6%　６年　89.6%<br>平均　85.3%（未達成）<br>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 100%にする。<br>⇒３年　100%　４年　85.2%　５年　95.8%　６年　86.2%<br>平均　91.8%（未達成） | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|---|
| 取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育活動の推進】<br>・防災・減災教育を通じて、安全・安心な教育活動を目指す<br>・道徳教育や避難訓練前後の指導を通して、防災や安全に関連する学習内容を指導し、防災への意識や関心を高めていけるようにする。<br>指標<br>・避難訓練等を年に３回実施する。⇒４月火事　９月台風　１月地震（達成）<br>・引き渡し訓練を年に１回実施する。⇒６月開催（達成）<br>・避難訓練後に避難訓練アンケートを行い、「災害が起こったときにすることがわかる」の項目で肯定的に回答する児童を 100%にする。⇒98%（未達成） | B |

| | |
|---|---|
| 取組内容②【基本的な方向１　安全・安心な教育活動の推進】<br>　児童会活動を通して、学期ごとに「あいさつキャンペーン」や「右側通行キャンペーン」を１回ずつ行っていく。<br><br>指標<br>・学校アンケートで「きまりやルールを守っている」の項目で肯定的に回答する児童を 92%以上にする。⇒94.9%（達成）<br>・児童会が作成した児童向けアンケートで「あいさつ」に関する項目で肯定的に回答する児童を 90%以上にする。⇒94.8%（達成） | A |
| 取組内容③【基本的な方向２　豊かな心の育成】<br>・平和や人権、多文化共生についての理解を深めるとともに豊かな心の育成をはかる。<br>・国際理解教育の実践を中心に多様な価値観や文化があることを知ることで、多文化共生を推進していく。<br>・平和教育を通して、豊かな心情や互いの文化や習慣を尊重しあい、平和を願う心を育てる。<br><br>指標<br>・年間で児童理解研修会・平和学習集中実践などの報告会を３回行う。<br>⇒６月児童理解研修会実施　１１月平和教育実践報告会実施<br>　３月年度末児童理解研修会実施　（達成）<br>・「いじめ（いのち）について考える日」では、児童の発達段階に応じて、全学年でいじめについて考える取り組みを行う。<br>⇒朝会にて管理職より児童に向けて講和。担任の指導あり。（達成）<br>・月１回の生活指導連絡会・いじめ対策委員会を開き、学年の実態把握、情報共有を行い、子どもたちを支えていえけるような体制を整える。<br>⇒生活指導連絡会を月１回開催。Skip の機能を使い生活指導を共有している。（達成） | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【安全・安心な教育の推進】

　経年調査のアンケートでは、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 89.8%と年度当初の目標を（94%以上にする）達成することができなかった。

　肯定的に回答しない理由については、多面的な要因が考えられるが、改善点として学級経営や授業の見直しが必要だと考える。

　また、「毎日、朝ご飯を食べている。」や「早寝・早起きをするようにしている。」の項目も肯定的に答える児童の割合が減少傾向である。そのことからも生活面で問題を抱えている児童の心身のケアを行う必要がある。

　「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 95.6%で目的を達成できた。「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が 85.3%と高い数値であるが目的には達しなかった。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は 98%で高い数値であるが 100%には及ばなかった。

① 今年度は１学期（火事)、２学期（台風)、３学期（地震・津波）の避難訓練を行ってきた。引き渡し訓練も実施することができた。２学期の児童アンケートでは、「災害が起こったときにすることがわかる」の項目で肯定的に回答する児童は、98%と高い数値であるが、100％には達しなかった。

② ２学期の児童アンケートで「きまりやルールを守っている」の項目は 94.9%、「しっかりあいさつをしている」の項目は 94.8%、「友だちや先生の話を聞いている」の項目では、目標を上回ることができた。
あいさつができた児童は桜の花びらを貼っていくという企画では、大きな桜の木をつくることができた。また、右側通行でも休み時間を利用して啓発していく活動ができた。

③ 平和教育実践報告会を１１月に実施することができた。「いじめについて考える日」では全校児童朝会の場で学校長から講話があり、その後も各学年で「いじめについて」 と考える取り組みができた。
また月１回の生活指導連絡会もＳＫＩＰの日誌機能を使うことで、事前に把握することや記録として残していくことができた。

次年度への改善点

①指標の見直し。98%という高い数値を受け、「することがわかる」から「状況に応じて主体的に判断できる」への取り組みが望ましい。新指標例「休み時間の担任不在での訓練において、自ら判断して１次避難ができた児童 100％を目指す。」

②あいさつ週間中は意識が高まるが、終了後に元に戻ってしまうことが考えられるので、アンケート内容に「あいさつ週間以外でもあいさつができている」の項目を追加し、結果を分析したい。

③「いじめについて考える日」の学びをその日限りにしない手立てを各学級で考案して、学校長の講和を聞いた後に、授業として「自分たちが守るべき具体的な行動」を宣言として掲示したり、学んだことを標語として掲示する。

（様式２）

大阪市立八幡屋小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
|---|---|---|
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|---|
| 【最重要目標２　未来を切り拓く学力・体力の向上】<br>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント向上させる。<br>⇒4 年+4.1 5 年-3.4 6 年+1.6　平均 0.7 ポイント向上(達成)<br>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。<br>⇒3 年 96.7 4 年 88.9 5 年 87.5 6 年 89.7 平均 90.7 点(達成)<br>○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。⇒3 年 93.3 4 年 96.3 5 年 75.0 6 年 86.2 平均 87.7(達成) | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|---|
| 取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】<br>学力向上を目指して、主体的・対話的で深い学びを得るための授業づくりに取り組み、個に応じたきめ細かで継続した指導・支援の充実を図る。<br>指標<br>算数科の評価テストにおいて、いずれの学年も平均を 70 点以上にする。<br>⇒平均（1 年→80　2 年→84　3 年→72　4 年→71　5 年→77　6 年→74）（達成）<br>国語科・算数科の単元テストにおいて、第４区分に相当する児童の割合を各学年１人以下にする。⇒単元によっては達成できた。 | B |
| 取組内容②【基本的な方向５　健やかな体の育成】<br>体を動かす機会を多く持てるよう工夫し、児童が進んで楽しく運動する習慣を付ける。<br>指標<br>学校アンケートの「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目に対して75％以上が肯定的に回答している。⇒94.1％（達成）<br>新体力テストを年２回実施し、２回目の結果を１回目より向上させる。⇒（達成） | A |
| 取り組み内容③【基本的な方向５　健やかな体の育成】<br>保健指導を通して朝ご飯の大切さについて伝え、保健便りや掲示物で各家庭に啓発する。<br>指標<br>学校アンケートの「毎朝、ごはんを食べている」の項目に対して肯定的に回答する児童を 85％以上にする。⇒86.9％（達成） | A |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市小学校学力経年調査において、平均正答率の対全国比を、同一母集団において学校平均で約 0.7 ポイント向上し、目標の 0.1 ポイントを上回った。しかし、それぞれの学年別でみると３学年で達成することができた。

経年調査アンケートにおいて、「運動が好き」の肯定的回答の数値が 96.6%と目標値を達成することができた。

経年調査アンケート「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的回答が 93.3%と目標値を達成することができた。

年間を通じ児童の学力向上のための様々な取り組みを学校全体で推進した結果、教師の授業力向上・学力に不安のある児童への対応などにつながったため、目標が達成することができたと考える。

① 算数科の単元テストにおいて、すべての単元・学年において 70 点以上を維持することは十分できなかった。目標値を達成できなかったのかを分析をするために、ヒストグラムで点数の推移を分析したり、テスト後の振り返りを実施したりしたことで、学力向上の取り組みを年間通じて行うことができた。

② 校内で行ったアンケートでも肯定的回答が 94.1%と高い数値を維持しており、児童の運動に対する意識が高いことがうかがえる。本校実施の 2 度目の新体力テストの結果は、全学年前回をほぼ上回る結果となり、児童が向上心や目標をもって取り組んでいることがわかる。

③ 学校アンケートでも肯定的回答は 86.9%と指標の数値を超えている。保健室から発行される「保健だより」や発育測定や保健の授業時に朝食の重要性を児童に継続的に行っていることで、家庭にも伝わっていることがわかる。懇談や保護者会で朝食の大切さに関する啓発を促した結果であると考える。

次年度への改善点

① すべての児童が学習に興味・関心をもって取り組むことのできる学習環境の整備、繰り返し・振り返り学習の体系化、デジタルドリルの学校を挙げての活用などを行い、児童のさらなる学力の向上につなげていきたい。

② 児童が運動に関する興味・関心を高水準で維持するために、学校全体で体つくり運動〈仮称〉八幡屋メソッドなどを提案・導入・実施し、新体力テストでの成績向上をめざしていく。

③ 毎学期実施される栄養教諭による食育指導などで、発達段階に応じた朝食の重要性についての授業を実施したり、ＰＴＡ保健・給食委員会による啓発活動をしたりするなど、学級担任・養護教諭だけではなく様々な角度から朝食の重要性を児童・家庭に発信し、毎日必ず朝食を食べるという意識づけをしていきたい。

（様式２）

大阪市立八幡屋小学校　令和７年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
|---|---|---|
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|---|
| 【最重要目標３　学びを支える教育環境の充実】<br>○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕<br>⇒5 月　89%　6 月　86%　7 月　87%　8 月　90%　9 月　88%　10 月　82%　11 月　88%　12 月　86%<br>87%（達成）<br>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を８０%以上にする。<br>⇒80%以上（達成） | A |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|---|
| 取組内容①【基本的な方向６　教育 DX の推進】<br><br>心の天気の入力を習慣化することによって、学習者用端末を活用する機会を増やす。<br>指標<br>・心の天気を児童の８０%以上が入力することを習慣化する。<br>⇒４月　69%　５月　71%　６月　70%　７月　68%　８月　71%<br>９月　79%　１０月　76%　１１月　73%　１２月　73%<br>平均　72%（未達成） | B |
| 取組内容②【基本的な方向６　教育 DX の推進】<br>・協働学習支援ツールを用いた学習を通して、学びに向かう力を身につける。<br>・タイピングカリキュラム等を作成して PC のタイピング能力を高められるようにする。<br>指標<br>・協働学習支援ツールを用いた学習を週２回実施する取組を行う。<br>⇒デジタル教科書、Google を使用する調べ学習、池島小学校５年生との協同授業の実施（達成）<br>・スカイメニューを使った研修を視聴覚担当の先生と計画をたてて行う。<br>・学年に応じたタイピングの目標を決めてタイピングの練習を行う。<br>（文部科学省が定めた目標が１分間４０文字）<br>⇒全学年にタイピング用資料を配布し、タイピングの練習に取り組んだ（達成） | A |

| | |
|---|---|
| 取組内容③【基本的な方向７　人材確保・育成としなやかな組織づくり】<br>働き方改革の取組を通して、働きやすい職場づくりを行う。<br><br>指標<br>・ゆとりの日については、週１回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は３日以上、冬季休業期間においては１日以上設定する。⇒実施（達成）<br>・ゆとりの日には会議等を設定せずに、１７時退勤を目標とする。⇒（達成）<br>・始業式、終業式の前倒し、後倒しを行う。⇒実施（達成）<br>・家庭訪問、懇談会時は４時間授業。⇒実施（達成）<br>・1 学期最終週を短縮授業、２学期開始週を４時間と設定し、９月にも酷暑が見込まれるので２週間を５時間授業とする。⇒実施（達成） | A |
| 取組内容④【基本的な方向８　生涯学習の支援】<br><br>・読書環境や読書活動の充実を図る。<br>・読書活動の充実を図る手立てを図書委員会中心に考えて実行する。<br>・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 73%以上にする。<br>⇒３年　53%　４年　77%　５年　54%　６年　65%<br>平均　62%（未達成）<br><br>指標<br>・読書環境を整える手立てとして、子どもの興味関心に即した本を増やしたり、学校図書館を運営することを委員会活動とひとつとして会開放日を週２回程度設定したりする。⇒実施（達成）<br>・学級文庫の入れ替えを年１回以上行う。⇒実施（達成）<br>・図書室の環境整備を行いながら利用しやすい環境を作る。<br>⇒紙しばいなど図書室で楽しいイベントを開催（達成） | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析（最終）

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標にあげている児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にすることができた。要因としては学習やタイピングの練習ゲーム（寿司打 等）での利用などが利用向上にあげられる。また、休み時間での使用も可としており、興味のあるものを調べたりすることで休み時間を過ごすことが利用向上にあげられる。年休取得の教職員は目標としていた 80%以上に達することができた。

① 「心の天気」に関しては平均して 70%前半となった。学習端末の利用率を上げるための取り組みの一つとして「心の天気」を取り組みにいれていたが伸び悩んだ。放送委員会で「朝の放送」各学級では「朝の会」などで「「心の天気」を入れましょう」と促してもらうことや、ＩＣＴニュースであったスクールライフノートのポップアップ通知も取り入れることで、２学期自体の平均は１学期より微増したが、目的に達することができなかった。ただ、現状で取り組めることはしてきたこともあり「Ｂ」とした。

② デジタル教科書やナビマの活用、スカイメニューあるいは連絡帳としての機能を活用することで、学習支援端末への使用頻度は高まったかと考える。
またタイピングが上達できるように、ローマ字表とともにタイピングフォームの表を全クラスに配布する。各学級でタイピングの練習をしてもらっており、６年生では文集も１度タイピングで打つことで文章の更正をしやすくするなど取り組んだ。
一方でタイピング大会等を開催することはできず、タイピングの練習や取り組みが学年任せになったことは反省点である。

③ 「ゆとりの日」については週に必ず１日設定している。翌週の週連絡版を配布して各々で週の計画をたてて仕事に取り組んだ。「平均時間外勤務時間」も毎月１時間程度縮めた。家庭訪問や懇談時には、４時間授業にすることで午後からの時間確保する。今まで長期休暇を利用して遠足や社会見学の下見に行っていたが、平日に行けるようになった。

④ 今年度は図書委員会が中心となって週３回の図書館開放と紙しばいの取り組みを行うことができた。いずれも好評で本に触れる機会や物語を聞く機会を得ることができた。
また、八幡屋小学校の図書ボランティアの方々と港図書館の協力のもと８年ぶりに「えほん広場」を開催し絵本に興味をもたせることができた。
ただ、大阪市小学校学力経年調査では目標の 73%には届かず、大阪市の平均も 69%にもわずかに届かず本校は 62%であった。

次年度への改善点

① 次年度への改善点として、朝に全員で学習者用端末を立ち上げて「心の天気」だけを入れる時間を取り入れていくべきかと考える。朝の時間帯なので、朝会やモジュール、５分間ドリルなどの取り組みがあり、時間を圧迫するおそれもあるがそのための時間を確保していくことが最善である。

② 次年度はＣＢＴで全国学力学習状況調査が行われ今後先もＣＢＴでのテストとなると、タイピングは必須となってくる。木曜を利用して集会・キッズタイム。読書タイムの中にタイピングタイムを取り入れていくこと、日常での授業で、発言を意図的にチャットで行うなどの工夫を取り入れるなどの工夫も必要となってくる。

③ 時間外勤務時間において一人あたり平均約２時間短くすることができている。教員一人ひとりが計画的に業務をすすめ、複数人で横断的に協力し合うことがこの結果となった。今後も継続する。

④ この数%を埋める取り組みとして、電子書籍などに興味をもたしていきたいと考えている。学習者端末で調べ学習などをするときにデジタル新聞や wiki を読むことで、読むことが楽しいにつなげていきたいと考える。